

令和4年度第3回岡山市協働推進委員会次第

令和5年2月6日（月）13:30～15:45

岡山市勤労者福祉センター5階体育集会室

1 開 会

2 あいさつ 市民協働局長

3 報 告

令和3年度市民協働推進事業の結果（資料1）

4 議 事

令和5年度岡山市市民協働推進事業の審査（資料2～3）

- ・ 審査方法
- ・ 提案事業のプレゼンテーション 各15分
- ・ 質疑応答 各10分
- ・ 採点 各 5分
- ・ 全体審議 10分

5 その他

6 閉 会

令和3年度市民協働推進事業一覧

資料1

事業名		提案団体	協働部署	令和4年度の方向
1	就学前親子の居場所づくり事業 【ニーズ調査】【行政提案】【継続】	特定非営利活動法人 岡山市子どもセンター	地域子育て支援課	その他 (報告書を研修等で活用予定)
2	貧困家庭の抱える「子どもの体験不足」の解消にむけた連 携・支援ネットワーク構築事業 【ニーズ調査】【行政提案】【継続】	特定非営利活動法人 チャリティサンタ	こども福祉課	一般施策化 (子どもの居場所等促進事業)
3	保護犬の人馴れ訓練プロジェクト 【行政提案】【新規】	一般社団法人ALL AS ONE	保健所 衛生課	市民協働推進事業継続
4	保健所に收容される乳飲み仔猫対策について 【行政提案】【新規】	岡山でのひら子猫	保健所 衛生課	市民協働推進事業継続

就学前親子の居場所づくり事業

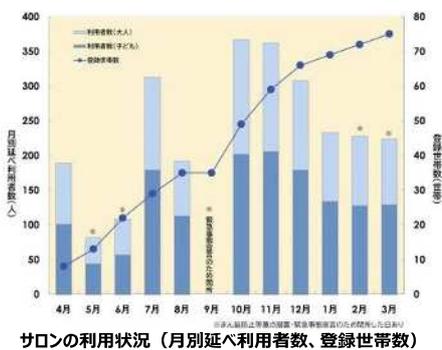
●課題：子育てに不安感や孤立感をもつ人の増加、子育て支援ニーズに沿った居場所のあり方が不明瞭

●主な成果と今後の対応

目標	主な実施内容	成果	今後の対応
子育ての不安感や孤立感の解消を図る、望ましい親子の居場所のあり方の確立	就学前親子の居場所の運営 週3日(常設/ベターライフ御南) 月1回(出張/大元中央公園)	常設：開所90日、登録75世帯、 のべ2,606人利用 出張：開催6回、のべ135人利用	実施団体の自主事業として利用料(月500円)を得て「みんな和やかサロン」を週2日開設する
	望ましい親子の居場所のあり方に関する報告書作成	具体的な実践内容や調査結果等を整理し、報告書作成を通じて望ましい居場所を整理	内容を研修等で活用して普及、多様な主体の子育て支援施策への参画を継続して検討する

●事業の経過と協働の状況

「ニーズ調査→2年間の実践→調査結果の検証」の行程により説得力のある「望ましい親子の居場所のあり方」を提示するに至った。具体的な子育て支援については団体の専門性が、一連の事業設計や調査に関しては大学教授の専門性が遺憾なく発揮された。今後の市全体への普及と、専門性のある多様な主体の子育て支援施策への参画について、市を中心に調整を進めることが求められる。



【令和4年度】成果物を研修等で活用して普及、多様な主体の子育て支援施策への参画について継続的に検討して、子育て支援の質向上を図る

ESD・市民協働推進センターから：
長く活用できる具体的な子育て支援のあり方を、説得力のある方法で提示することができた。以後は市と多様な主体による市全体への普及が求められる。

貧困家庭の抱える「子どもの体験不足」の解消にむけた体験活動ロールモデル構築事業

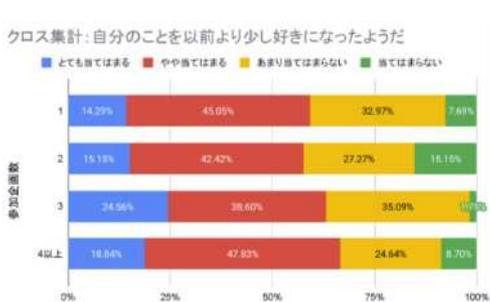
●課題：体験不足から生じる貧困家庭の子どもの自己肯定感の低さや親の不安、支援情報の届きづらさや孤立

●主な成果と今後の対応

目標	主な実施内容	成果	今後の対応
自己肯定感の向上と不安感解消	体験プログラム実施 積極関与8件 情報提供・運営補助15件	のべ2,263人参加 体験プログラムへの複数回参加で自己肯定感向上等を確認	令和2年度に先行して一般施策化した情報配信事業「親子応援メール」に加えて、体験プログラムの掘り起しと運営補助について一般施策化
体験プログラムの実施体制の確立	交流会等の開催や個別の打合せにより協力関係を構築 企業・団体など計42	連携先拡充、自主財源確保、学生ボランティア募集、プログラム自走化など事業基盤を確立	実施団体の自主事業として誕生日支援を継続的に実施

●事業の経過と協働の状況

継続的に体験プログラムを実施しながら、事例集の作成や交流会、個別の打合せ等を実施して連携先を拡充した。体験プログラムの内容は担当部署と実施団体で随時協議し、ニーズに沿った的確な体験を提供するように努めた。結果として、子どもの自己肯定感や親の受援力の向上が見受けられた。また、プログラムに協力した企業等も充実した成果が得られることから、より積極的に協力するという好循環が生まれた。



【令和4年度】担当課で予算化および団体の自主事業として事業実施

ESD・市民協働推進センターから：
行政・団体ともに予算を確保し、連携先と関係構築を図るなど協働推進事業の間に十分な事業基盤を築くことができた。今後もニーズ調査結果や参加者の意見を踏まえた多様な組織と人が関わる体験プログラムの実施による課題解決に期待したい。

保護犬の人馴れ訓練プロジェクト

●課題：一頭でも多くの保護犬を譲渡するためには、訓練を担う人材の育成と譲渡の環境整備が必要である。

●主な成果と今後の対応

目標	主な実施内容	成果	今後の対応
人馴れしていない犬の訓練体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練と譲渡の拠点の確保と整備 ・ボランティアの発掘と育成 ・サポートメニューの構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな拠点(わんドッグハウス)を確保・整備 ・目標20名に対して18名のボランティアを発掘・育成 ・マニュアルと情報伝達ツールを整備 	令和5年度の一般施策化を目標として、事業を継続する
効率的な譲渡を実現するための情報及び機会の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・保護犬情報の発信 ・譲渡会の開催 ・飼い主への助言・指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数回の取材対応を通じて不特定多数への情報発信が実現 ・4回の譲渡会に約450名が参加、5頭（全体では25頭）の譲渡が実現 	
安定的・継続的な事業展開を支える支援基盤の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家を交えた会議の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の主旨に賛同する訓練士、獣医師との連携が実現 	

●事業の経過と協働の状況

毎月の定例会議により、目標・進捗状況・役割を確認しながら事業を進めることができた。実施団体と担当部署が率直にアイデア・資源を出し合うことで、より多くの市民・参加者に訴求する事業内容となった。



ボランティアスタッフ



メディアを通じた情報発信

【令和4年度】市民協働推進事業を継続実施

ESD・市民協働推進センターから：
譲渡会については団体の発信力・ネットワークが生かされ、各回多くの参加を得ることができた。また、認知と共感の広がりや新規ボランティアの獲得にもよい影響を及ぼし、マンパワー不足の解消につながっている。

保健所に収容される乳飲み仔猫対策について

●課題：殺処分ゼロを維持するためには、ミルクボランティアの発掘・育成と譲渡のしくみづくりが必要。

●主な成果と今後の対応

目標	主な実施内容	成果	今後の対応
乳飲み子猫を健康に育てられるボランティアの養成	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア説明会の開催 ・ボランティア研修会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明会を2回開催。目標40名に対して47名の参加があり、うち3名が新規ミルクボランティアに登録 ・少人数のため研修会ではなく個別指導を実施 	令和5年度の一般施策化を目標として、事業を継続する ボランティアを支える伴走支援とツールについては、新規ボランティアへのアンケートを行い、令和4年度中に検証と改善を行う予定
ミルクボランティアの活動継続を支える環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・新規ボランティアへの伴走支援の実施 ・医療ケアフローチャート等のツールの作成・運用 ・ボランティア同士の情報交換ツールの作成・運用 	<ul style="list-style-type: none"> ・LINEグループによりタイムリーな相談対応と情報交換を実現 ・ボランティア用の資料（2種類）を配布・運用 	
安定的・継続的な譲渡を実現するためのしくみづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・譲渡会の開催 ・譲渡マニュアルの作成・運用 ・ウェブサイトでの情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・年6回の譲渡会を開催、142名が参加 ・全体で20匹（目標25匹）の譲渡を実現 ・譲渡マニュアルの作成・運用：「譲渡マニュアル」を作成・運用 	

●事業の経過と協働の状況

新型コロナウイルスの影響を受けることなく、概ね当初の予定どおり事業が進行され、いずれの目標に対しても一定の成果をあげることができた。協働事業であることの強みとして、行政の信頼性を生かした協力者の拡大や多様な媒体を利用した情報発信によって次年度以降のさらなる影響力の拡大が期待される。



【令和4年度】市民協働推進事業を継続実施

ESD・市民協働推進センターから：
例年より保護される猫が少ない状況（原因は不明）において、20匹の譲渡を実現できたことは本事業の成果を示す結果であると思われる。サポート体制の検証・改善によってより確実な定着につながっていただくことを願う。

審査会タイムスケジュール

資料 2

	事業名	提案団体名 協働部署名	団体集合	令和5年度事業説明	プレゼンテーション	質疑応答	採点	集計 結果発表	全体審議
1	イベントによって発生するごみ削減に向けたサポート事業 【NPO提案】【新規】	NPO法人タブラ・ラサ 環境事業課	13:45	14:00～14:05	14:10～14:25	14:25～14:35	14:35～14:40		
2	マンション管理をサポートする団体の裾野を広げるための連携事業 「災害リスクをチェックし、自身のマンションをより詳しく知る取り組み」 【行政提案】【新規】	建築士会 住宅課	14:25	14:40～14:45	14:50～15:05	15:05～15:15	15:15～15:20	15:25	15:25～15:35

令和5年度市民協働推進事業提案 概要

資料 3

事業番号	提案団体	内容	事業の目標	事業終了後
1	<p>・NPO法人タブララサ</p> <p>・岡山市環境事業課</p>	<p>イベントによって発生するごみ削減に向けたサポート事業</p> <p>①先行事例収集、認証制度構築 全国各地への視察を行い、サポートメニューの多様化と「環境配慮イベント認証制度(仮)」構築の骨子検討に活かす。</p> <p>②イベントへの直接サポート イベントに応じたサポートメニューを提案し、環境に配慮した取組のサポートを行う。</p> <p>③コンテンツ、ノウハウ情報発信 環境に配慮した取組の導入を検討している主催者に向けて、サポート事例のアーカイブ情報をホームページ上で発信する。</p>	<p>ニーズ調査結果を踏まえ、イベントによって発生するごみ削減を目指す。サポート内容に対する効果検証などを踏まえ、「環境配慮イベント認証制度(仮)」を事業化を目指す。</p>	<p>岡山市から実施団体への委託事業として運営し、認証したイベントに補助金を交付する制度として一般施策化を目指す。</p>
2	<p>・一般社団法人岡山県建築士会 (合同提案:公益社団法人日本技術士会中国本部 岡山県支部)</p> <p>・住宅課</p>	<p>マンション管理をサポートする団体の裾野を広げるための連携事業「災害リスクをチェックし、自身のマンションをより詳しく知る取り組み」</p> <p>市民の興味・関心が高く、コミュニティ形成を促しやすい「防災」をテーマとして、住民・管理組合と専門家の協働による2事業(2年目は3事業)を実施する。</p> <p>①災害リスク調査の実施 (1)マンションの立地特性を知り、防災のために必要な取り組みを住民にアドバイスする (2)マンションの構造特性を知り、災害への備えをアドバイスする</p> <p>②サポート団体の発掘と体制構築</p> <p>③マンション防災パンフレットの作成(2年目より)</p>	<p>①建物管理、管理組合の運営、居住者トラブル、高齢者の見守りなど、マンションの適正管理を支える担い手(専門家組織等)を増やす。</p> <p>②「防災」をテーマとしてマンションの居住者同士のコミュニティ形成を促進する。</p>	<p>災害リスク調査で関係を構築した団体・専門家とそのノウハウを「マンション管理士派遣制度」に組み込む。(既存の補助制度のメニューを拡充する。)</p>